

愛情こもったお米をどうぞ

9月21日に多古高校生産流通科作物専攻の生徒が第一小に出向き、校内の田んぼで5年生と一緒に稲刈りをしました。高校生に鎌の使い方や刈り取った稲の束ね方を教わり、会話を弾ませながら大きく実った稲を収穫。10月13日には道の駅多古で、収穫して精米した2合分のお米と、多古米の特徴や魅力などが書かれた手作りのパンフレットを児童一人ひとりに来場者約80名に手渡されました。自分たちが作ったお米を一生懸命に説明する児童たちの姿が印象的でした。



子どもたちの笑顔のため、ボランティア集う

10月28日、お月見どろぼう実行委員会主催による「お月見どろぼう“第6幕”」が行われ、約500名の親子連れが参加しました。本来であれば、ハロウィーンとウォークラリーを併せて町内の商店街を歩く予定でしたが、この日は雨がぱらつき、あいにくの空模様。残念ながら第一小体育館での開催となりました。昨年までは、町商店街起志回生の会が主催していたこのイベントですが、今年は町内の有志が集まり、町商工会青年部をはじめ多くのボランティアが参加しました。また、町内外から法人個人を問わず多くの協賛をいただきイベント運営がされました。参加者にはお菓子などのプレゼントが配られ、思い思いの仮装を楽しむ子どもたちの笑顔に魅了されました。



地域での支援の輪を広げよう

10月29日、コミュニティプラザで地域支え合いフォーラムが開催されました。基調講演では「支え合いのまちづくり」と題し、講師の土屋幸己さんからは「住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、医療と介護の連携や地域の住民同士の支え合い・助け合いの仕組みをつくる必要がある」と伝えられました。また、実践報告として3団体より発表がありました。なかでも、高齢者の健康サロンでの活動や健康体操などをサポートしている「介護予防サポーター楓」(写真)の皆さんは、日ごろの活動から健康寿命を延ばすお手伝いができればと話していました。これからも支援の輪が広がっていき、地域での支え合い体制がよりよいものになることが望まれます。

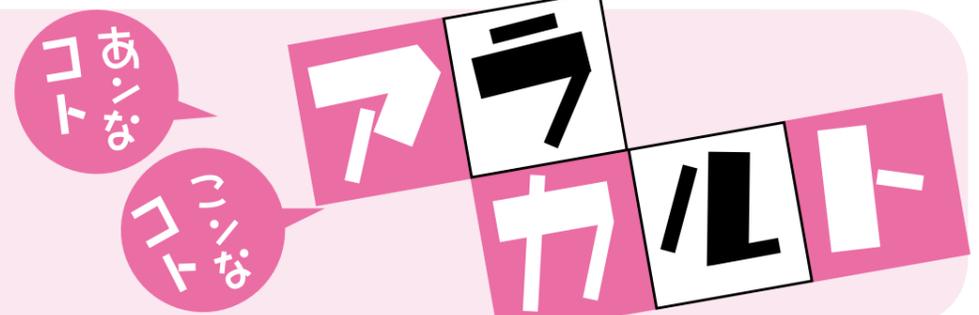


秋晴れの収穫祭 食を通じて深まる一日

10月8日、多古町農協園芸部主催による第11回収穫祭が二本松野菜集出荷場で開催され、ねぎしフードサービスの社員の方たちや市場関係者らおよそ300名を招きました。昨年は悪天候のため収穫体験が中止となりましたが、今年は天候に恵まれ、ビニール袋いっぱいになるほど大和芋とサツマイモを収穫する姿が見られました。園芸部長の渡邊さんは「今年は作付時期に雨量が少なく、夏場の日照不足など作物にとって非常に厳しい環境下だったが、良質な大和芋ができた」と話していました。また、園芸部からはとん汁や焼きそばなど、ねぎしからは牛たん300食分が振る舞われました。



町の出来事や頑張っている皆さんを紹介するアラカルトコーナー。
このコーナーでは、皆さんからの情報をお待ちしています。
〒289-2292
多古町役場企画空港政策課広報係
☎76-5409



多古米祭り

~2017 TAKOMAI Festival~

第2弾 多古米グランプリ決勝大会

10月21日、今年で6回目を迎える多古米グランプリが、道の駅多古にて開催されました。

今年54名の生産者から自慢の多古米コシヒカリの出品がありました。事前に食味分析計を使用した食味値での予選審査を行い、上位7名がグランプリ決勝大会に進みました。同じ条件で炊飯された新米を、特別審査員5名が「外観・香り・味・粘り・硬さ」の5項目の基準による実食審査を行い、その結果、並木司さん(南借当)が見事グランプリを受賞しました。また、来場者向けにグランプリ決勝大会の優勝者を予想する企画も行われ、見事グランプリ・準グランプリを的中させた3名には、「多古米コシヒカリ 30kg」がプレゼントされました。

道の駅でお買い上げいただいた方々は、多古米すきいどりや縁日などを楽しみ、ステージでは昨年に引き続き、多古町出身で司会の金杉陽子さんとお笑い芸人のGO! 皆川さんが会場を盛り上げました。



グランプリ
並木 司 (南借当)

準グランプリ
椎名 剛 (林)
石川 清 (船越)
(敬称略)

ようこそ多古高へ、台湾生との国際交流

県では、国際的な視野を持った人材育成および訪日教育旅行による観光客誘致の促進を図るため、海外からの教育旅行の受け入れを行っています。10月17日、国際交流事業の一環として、台湾の宏仁女子高級中学の生徒12名(引率教員2名)が多古高校に訪問しました。1年生の芸術や英語の授業への参加、3年生の生産流通科の生徒たちとのポップコーン作り、剣道部や茶道部による文化体験など、多古高生と台湾の生徒との交流が深められる場となりました。宏仁女子高級中学の先生は「特に芸術や英語の授業が参考になりました。今後の教育方針に新しいプランを導入できないか検討したいと思います。ぜひ機会があれば台湾にもお越しください」と話していました。両校の生徒にとっても貴重な経験となったことでしょう。

